

2022 年 新製品のご案内

高級美術複製画

クロード・モネ「アルジャントウイユのひなげし」 限定 300 部 発売

共同印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:藤森康彰)は、印象派の巨匠クロード・モネ《アルジャントウイユのひなげし》の高級複製画を、限定 300 部のエディションで制作、販売を開始しました。

アルジャントウイユはパリから 10km ほどのセーヌ河畔の町です。田園風景と近代生活が混ざり合うこの地に魅せられた印象派の画家たちが、ここで数々の作品を制作しました。

モネがアルジャントウイユで過ごした時代のうち《アルジャントウイユのひなげし》を制作した時期は、妻のカミーユと幼い息子ジャンと共に自然豊かなパリ近郊で過ごした、モネの生涯において特に幸せで喜びに満ちた時代でした。この時代のモネは、家族と共に過ごす身近な日常の景色を題材にした多くの作品を描いており、充実した日常が感じられます。

夏の始まりを告げるかのように赤い花が咲くひなげしの野原と青い空。この美しい対比のなかに、カミーユとジャンをモデルにしたともいわれる二組の親子が描かれています。

本作は、「印象派」という名前のもととなった《印象・日の出》を含む数点の作品と共に 1874 年の第一回印象派展に出品された、印象派の黎明期を代表する一枚です。

今回この大変貴重な作品を、所蔵元のオルセー美術館から正式に複製画制作の許諾を受け、共同印刷の独自技法「彩美版®」で再現しました。印象派の巨匠モネが最も充実していた時代に描いた、軽やかで美しい初夏の景色を、ぜひお手元でお楽しみください。



Photo©RMN-Grand Palais(musée d'Orsay)/

Hervé Lewandowski/distributed by AMF/ユニフォトプレス

<資料>クロード・モネ (Claude Monet, 1840~1926)

1840 年生まれ。1859 年パリへ出て、ピサロやルノワール、シスレーらとの交流が始まる。1865 年《草上の昼食》着手。1871 年パリ近郊のアルジャントウイユに移り、ほぼ 7 年を過ごす。1873 年本作《アルジャントウイユのひなげし》を制作。1874 年「第一回印象派展」開催、本作のほか《印象、日の出》などを出品。1878 年パリ近郊のヴェトウイユ村に移る。1883 年ノルマンディー地方ジヴェルニーへ転居。1888 年以降《積み藁》《ルーアン大聖堂》などの連作開始。1899 年ジヴェルニーの「水の庭」で「睡蓮」を主題にした最初の連作の制作を始める。1914 年《睡蓮》大装飾画の制作を開始。1926 年 86 歳で逝去。

【仕様体裁】

技法:彩美版® シルクスクリーン手刷り

限定:300 部

用紙:キャンパス

額縁:デコレーション金箔木加工額(MDF 材)、
アクリル付き/国産

画寸:天地 40.4cm×左右 52.7 cm

額寸:天地 56.5cm×左右 69.0cm×厚さ 3.0cm

重量:約 3.8kg

監修・解説:高橋明也(美術史家、東京都美術館館長)

原画所蔵:オルセー美術館

販売価格:154,000 円(税込)

※当社が独自に開発したセキュリティシールを証明書に貼付しています。スマートフォンなどでフラッシュをたいて撮影すると、作品が共同印刷の発行する真正な複製画であることを判定できます。